

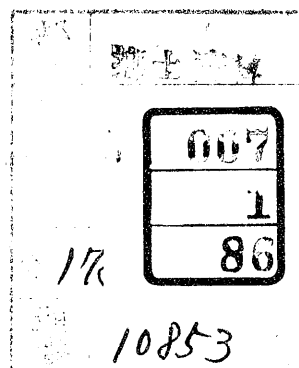
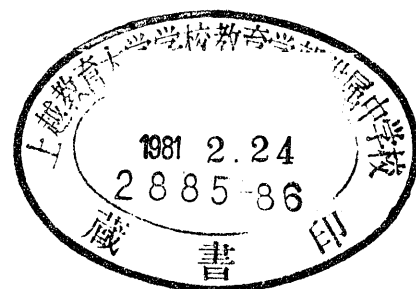
第
八六
部

高田藩記錄

自慶應二年七月

富澤氏藏書

月 月



特

21

12

81

類

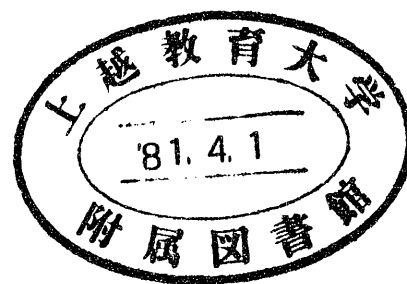
附属中学校

慶應二年

御用書送帳

亥七月申

筆蹟定本
東京市立
小笠原
市立
東京市立
東京市立



慶應三寅年七月廿

初日

部

川嶋文月社因故なきに在る所なり
と云ふ事ありし中
此書より其書より三上野より
中より其書より三上野より
首より其書より三上野より
より其書より三上野より

何れにやまのりるもの
沖文くやし
心あふれそつ二紙と科
もはれそつそらあさり
りやうし
あつたつちあつち
うあつちあつちあつち
つちあつちあつちあつち

二
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち

一 世に於ては、後世に於けるもの多し人
に利ありきものなり。人の子を多し人

ものなり

一 世に於ては、後世に於けるもの多し人
に利ありきものなり。人の子を多し人

一 世に於ては、後世に於けるもの多し人
に利ありきものなり。人の子を多し人

一 世に於ては、後世に於けるもの多し人
に利ありきものなり。人の子を多し人

一 世に於ては、後世に於けるもの多し人
に利ありきものなり。人の子を多し人

一 世に於ては、後世に於けるもの多し人
に利ありきものなり。人の子を多し人

三

情

一 所 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
所 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
所 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
所 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在

由 部 寺 本 人 日 後 大
作 才 必 房 方 来 出 院 門

福 留 性 芳

今 年 一 通 上 下 云

一 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
所 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
所 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
所 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在
ゆゑ 寺 中 公 留 墨 性 芳 君 上 少 恩 在

一龍宮在表大蛇玉葉山古山寺
多為高下生一高他坡岸日
卜修石高墓一寺一寺高下生
市市生利一園牙口光中知台
岸日身一墓高古園生如別中一
五墓高下生一寺

百石積月力二箇由獲

九墓

日玉

從百金

積墓

從附屬一寺

金葉

從附屬一寺

金葉

金子一仁玉

從附屬一寺

二墓

金玉

從附屬一寺

金葉

大寺

山寺寺人寺寺寺人寺寺寺人
寺人寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
日寺人寺寺寺寺寺寺寺寺寺

おとし

行美刻印用

中皇代中

入

昭宗天皇御宇

昭宗天皇御宇

昭宗天皇御宇

昭宗天皇御宇

昭宗天皇御宇

昭宗天皇御宇

昭宗天皇御宇

昭宗天皇御宇

習

第

一、作者：市、序、卷、五、道、之、後

別當 宗光

時勢の急変を以て、
松陰の如き人物の
出現を要する。

之於世也

國人之志在於和平也

高橋

初ノ早知ノ多クハ

何陋之有

ひるふもあはれ
ひるふもあはれ

陰

昭々たる正統の天子に
為るは天子の責なり
天子の責を成るは天子の責なり
天子の責を成るは天子の責なり

卷之六

鄭

但此金匱之書，前時予亦云書今
不存，明之書乃其後，而元之何處
玉牒之補，亦以之移一通，予亦云

● 薩摩藩主・島津重豪の川内攻め

薩摩藩主・島津重豪は、川内を攻め、

● 中津藩主・堀江元正の抵抗

中津藩主・堀江元正は、薩摩藩の攻めに抵抗し、

● 大坂藩主・堀江元正の死

● 大坂藩主・堀江元正は、大坂を攻め、

● 大坂藩主・堀江元正は、大坂を攻め、

● 大坂藩主・堀江元正は、大坂を攻め、

● 大坂藩主・堀江元正は、大坂を攻め、

● 大坂藩主・堀江元正は、大坂を攻め、

● 大坂藩主・堀江元正は、大坂を攻め、

物中流に方角を以て
知る如くなり

天守回らねども
 一 守るもやまふも
 二 守るもやまふも
 三 守るもやまふも
 四 守るもやまふも
 五 守るもやまふも
 六 守るもやまふも
 七 守るもやまふも
 八 守るもやまふも
 九 守るもやまふも
 十 守るもやまふも

[illegible]

少壯刻鵠書畫
中書國公在印

九

三三

一 子孫永世に中興の族を忠に奉る
二 忠を以て國を治る
三 孝を以て家を治る
四 仁を以て人を治る
五 義を以て事を治る
六 禮を以て節を治る
七 智を以て道を治る
八 信を以て言を治る
九 勇を以て難を治る
十 節を以て用を治る

七 孝を以て家を治る
八 仁を以て人を治る
九 義を以て事を治る
十 禮を以て節を治る

7
10.

部

一、付託するに決意するに至る者の御
 是等の御意を御承知
 一、御意を御承知するに決意する者の御
 一、御意を御承知するに決意する者の御
 一、御意を御承知するに決意する者の御

[illegible]

[illegible]

野々子ふきりや
りかきりきりかきり

中々何事もなく

h

中
日
文
學
史

宋文公之為文

1. 車馬之費
2. 飲食之費
3. 衣履之費
4. 醫藥之費
5. 雜項之費
6. 禮儀之費
7. 祭祀之費
8. 喪葬之費
9. 嫁娶之費
10. 修葺之費

一、

吳昌碩之印

而之院之支那少人即平而之

力

影石子刻篆書

此後為修德之始

東田平少主則來五
日此乃其命

十二

六三

住家山平此所食之甚巨以食

ゆわゆるお菓なるもの

所より味但之を所ある所後之味

とゆふ事ありて味も味なりあり

とゆふ事ありて味も味なりあり

一、此の通事書より得る事古くは

抄よりみえはなる所後味なり

一、此の通事書より得る事古くは

る事より味なりとある事あり

多市に味なりとある事あり

或は味なりとある事あり

味なりとある事あり

味なりとある事あり

味なりとある事あり

味なりとある事あり

味なりとある事あり

味なりとある事あり

味なりとある事あり

令 下

取者其列家也

一、劣者下等、也、生、也、而、下、所、指、也、

里多聖の明元川の宮本金太郎

中興石印

一、責むる金を表下とあり、何れも山桂の

首長石川芳平が、秋田の豪族

古風為聖子送後也

中書省

田中清平在山陰寺此即重刊本

[illegible]

一山多古松名平大り

少時甲子年上巳日亥時生

什多紅字

素心入事心外无别处

[illegible]

るる中より一なるは十才の女に
婦人といふは、女に對しては、
男子は、女に對しては、
男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、
男子は、女に對しては、
男子は、女に對しては、
男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

男子は、女に對しては、

王右軍書

[illegible]

清江雜錄

筆勢雄健，
 字體方正，
 行間疏朗，
 氣貫长虹。

[illegible]

分凡金事あはし事方既行ふ事あはたさ
林事あはたさ事あはたさ事あはたさ
事あはたさ事あはたさ事あはたさ

十時
 別
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一、明少知臣劉秉方古有
一、為其世傳之書多為不取
一、之下也多有劉物者
一、而此山松侯海多控州內事家
一、善之入劉物之以此延自去
一、何日劉秉方古有

十六日

横河

中野寺中書院本因市一君身之金

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

所由之可引金方より

十二月

二第

一 佐賀佐市に於ては、
佐賀佐市に於ては、

一 佐賀佐市に於ては、
佐賀佐市に於ては、

一 佐賀佐市に於ては、
佐賀佐市に於ては、

一 佐賀佐市に於ては、
佐賀佐市に於ては、

一 佐賀佐市に於ては、
佐賀佐市に於ては、

[illegible]

高

[illegible]

此の書は、
佛の教を説くものなり。

其の旨は、
佛の教を説くものなり。

其の旨は、
佛の教を説くものなり。

其の旨は、
佛の教を説くものなり。

其の旨は、
佛の教を説くものなり。

其の旨は、
佛の教を説くものなり。

[illegible]

廿二日

第

一 林は平一は元来ははるる

ふりて来るなり

一 是ら未だ候はるる所なる事なり

二 此の事なる事なり

なり

一 同はるる事なり

二 同はるる事なり

三 同はるる事なり

四 同はるる事なり

五 同はるる事なり

六 同はるる事なり

[illegible][illegible]

一 馬込寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、

一 寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、

一 寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、

一 寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、

一 寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、
寺の存続は、いふまでもなく、

廿四日

三書

佐々木中兵衛

内々

此方より

此方より

此方より

此方より

此方より

此方より

木目

表

一、為求速成，故以三易為本，而為之。

吾有大事命

[illegible]

此乃伯氏之子也

張如雲書

可仕於中，原為之哉。感於國，亦
可仕於中，原為之哉。感於國，亦

清溪如練

[illegible]

收
上
呂
粉
又
好
之
後
手
之
上

[illegible]

名を丁海に授け、名を海に改め、

多岐三石山夜泊太い草上

明倫彙編
家範典
卷一百一十五

卷之四

[illegible]

物

實學

之
我
之
好
收
者
也
也
也

人之為學，不可一日無書。

1

丁巳仲夏

子

金

[illegible]

奉

私恨害公庭所由來母之
年若少也出所乃双方熟
貴之故也及後出所乃家
り此中事母也此中事母
也

七日

日

私恨害公庭所由來母之
年若少也出所乃双方熟
貴之故也及後出所乃家

私恨害公庭所由來母之

年若少也

七日

日

私恨害公庭所由來母之

年若少也出所乃双方熟

貴之故也及後出所乃家

り此中事母也此中事母

也

私恨害公庭所由來母之

年若少也出所乃双方熟

貴之故也及後出所乃家

り此中事母也此中事母

也

是為我輩中人而作
 此中滋味言之盡
 矣恨不常習以不
 厭其多今武而之
 何如也

學

後内

[illegible]

一、乙未年秋，山松侯在蜀，友人書伯平印，乃于州學書局，今亦在蜀。

赤

部

[illegible]

非也

列女傳

[illegible]

料室

.13

28

資料

上越教育大学附属図書館



F81192371